



# GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

vol.3  
2011年9月号

こころの中を見つめよう  
博愛を広げるために



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

月信に掲載しなかった補足情報をホームページに掲載しております。<http://ri2710.com/>をご覧下さい。

## ガバナーメッセージ GOVERNOR'S MESSAGE

### ロータリーを知る



国際ロータリー第2710地区  
2011～2012年度ガバナー

田村 泰三

ロータリーを知ることは容易なようですが、決してそうではないと思うようになりました。「ロータリーとはなんですか」とたずねられた時に即座に答えることは困難です。ロータリーが非常に多様な面を持っているためかもしれません。

RI理事会は2010年から3年間有効とする長期計画の中で以下のようにロータリーを説明しています。「地域社会の生活を改善したいと言う情熱を、社会に役立つ活動に注いでいる、献身的な人々のネットワーク」というものです。

これは国際ロータリーの本部があるエバンストンにノースウェスタン大学という歴史のある立派な大学があります。この大学の学生にロータリーのことを十分に勉強して、ロータリーはなんであるかを表現してもらった言葉と言われています。

また、ロータリーの綱領にはロータリーの目的が書かれています。職業に奉仕の精神を込めるように努め、知り合いを広め、道徳的水準を高めることを目標としています。

ガバナー月信8月号に紹介しましたように、2011-12年度のカルヤン・バナルジー会長は「こころの中を見つめよう 博愛を広げるために」をRIテーマにしました。会長は「こころの中を見つめよう」を「深く自己を省みることによって」と解説しています。

反省で思い出すのは、一日3回の反省あるいは論語

にある三つの反省です。また、江田島の海軍兵学校には五つの反省、五省があり、教育勅語とともに学生に教えられたと言われます。

1、至誠に悖るなかりしか（真心に反することはなかつたか）、1、言行に恥ずるなかりしか、1、氣力に欠くるなかりしか、1、努力に憾みなかりしか、1、不精に亘るなかりしか、という五つ反省です。

戦後アメリカ海軍の幹部が五省の精神に感銘を受けてアナポリス海軍兵学校に英訳文を掲示し、日本の海上自衛隊では日々の行動を自省する標語として用いられているそうです。

RIテーマを私は以下のように解釈したいと思います。「反省をすることによって自分の気力の充実と精神を成長させ、他の人に人道的な支援をしよう」というものです。自分を育て、他の人のために尽くそうという、これこそロータリーを表現していると思います。

あるクラブの公式訪問でこの話をしました。すると年配の会員の方が来られて、海軍兵学校を卒業された方で、五省を常に手に持っておられようでした。「同期の会でこの五省の話をして認知症にはならない」と言われました。反省をすることは脳の機能を維持するうえで非常に有効な働きをしているのではないかと感じています。

しかし、反省をすることや精神機能、脳機能を高めるなどということは決して容易なことではありません。一人では難しいので仲間が必要であり、ロータリーで親睦や例会出席が重要です。

ロータリー活動において多くの奉仕活動がありますが、決して他の人のためばかりではなく、ロータリーが人生の道場といわれるよう自分を育てることがあることも認識しておきたいと思います。これこそロータリーを知るために欠かすことができない要素であると思います。



## 新世代のための月間に寄せて

国際ロータリー第2710地区  
ガバナー 前田 茂



9月は「新世代のための月間」であります。各クラブにおかれましては新世代プログラムの遂行を切にお願い申し上げます。新世代のための月間（New Generations Month）は、年齢30歳までの若い人の育成を支援するすべてのロータリー活動に焦点をあてるためのものと指定されています。

ロータリークラブは「各ロータリアンは青少年の模範（Every Rotarian an Example to Youth）」という標語を新世代のための月間中のクラブ会報や広報資料に使うように奨励されています（ロータリー章典）。昨年度自然災害が各地で発生し、様々な形で支援活動が展開されてきました。特に東日本大震災は今だに被災者、被災地への救援の手が行き届かない現状があります。RI第2710地区内のインターラクトクラブ会員が、被災地のインターラクトクラブを励まそうという企画で「ガンバレ東日本」という強い気持で激励の寄せ書をRI第2530地区インターラクトクラブ会員に贈呈いたしました。互に手をたずさえて頑張ろうというものです。こうした心あたたまる新世代の支援活動は訴えるものが純粋で、強いインパクトがあると思います。若者たちのこうした仲間を意識した活動は、ロータリーという組織の理解や広報に繋がって、広がりを見せるものと確信するものであります。

ロータリーの新世代奉仕は昨年度より五大奉仕の一つになりました。その内容は常設プログラムであ

る4つの大きな柱で展開されてきております。加えて、その時代の新世代ニーズに取り組むものと明記されています。今、日本の若者たちはひきこもり現象、リスク逃避現象、仮想的有能感現象、キレる現象、自己中心現象など様々な形で今の世情に通じているのではないかと思うところがあります。陰湿な「いじめ」を止めない、見て見ぬふりをする（加害者とみなされます）、トイレの鍵をこじ開ける、口を利かない、徹底的無視、暴言（死ね、ブタ、デブ、ゴキブリ等）を言う。他愛無い言動かもしれません、物事や人生を真剣に考えようとする人たちにとっては煩わしいものであると思います。又、こうした事象を乗り越え、自立する心を養う必要があります。もう一度足元の現状と過去の歴史を鑑み、ロータリーの価値観を相乗させていく必要を感じます。最近、企業からみた新入社員は、多様な解のある課題をどう対処するかを探る思考力が、単細胞的な発想でしかとらえられないと言っています。今までの知識教育にも原因はあったのかもしれません、ネット文化の浸透や情報優先思考を主眼とせず、ネット社会に流されない論理的思考力の刺激が必要といわれています。これから新世代は様々な課題やそれらを克服していくかねばならないという意識は充分に備えていると思います。我々ロータリーはこれらに対し、一歩踏み込んで対話と協働を促しながらプログラムを活用していかねばならないと思います。やがてロータリーを支えてくれる人達であります。今年度の新世代奉仕が益々と向上していきますことを強く願っております。

### 地区ホームページ9月度更新、掲載予定記事

- ハイライト米山
- ガバナーメッセージ(ビデオ版)
- ボランティア活動の報告 宇部西ロータリークラブ
- ローターアクト現状報告 地区ローターアクト代表
- 第1回地区協議会報告 地区ローターアクト代表
- 国際ロータリー第2710地区青少年交換委員会報告①
- 第2710地区グループ紹介 各ガバナー補佐
- RI第2710地区 2011-12年度／74RC会員増減・出席率(従来形式)
- 文庫通信(287号)

# 第35回インターラクト地区大会報告

国際ロータリー第2710地区  
インターラクト委員長

近藤穂積



折からの猛暑の中、7月30日31日に山口県宇部市の常盤公園内にあるときわ湖水ホールにおいて、「世界の今と未来 私たちにできることは～環境問題について考える～」というテーマのもと、宇部フロンティア大学付属香川高等学校インターラクトクラブの主催、宇部西ロータリークラブの全面バックアップで開催されました。インターラクトクラブ関係では、浜村一穂宇部フロンティア大学付属香川高等学校長を始め、山口、広島から17インターラクトクラブの生徒さんや顧問の先生方約150名に参加して頂きました。さらに、スポンサークラブである宇部西ロータリークラブからは、有田会長、網本インターラクト地区大会実行委員長をはじめ、クラブの皆様総出で、設営や運営など、それこそ辯い所に手が届くようなきめ細かい配慮をしていただきました。紙面をお借り致しまして厚く御礼申し上げます。また、地区からの来賓として田村泰三ガバナー、大之木ガバナーエレクト、藤原前年度地区インターラクト委員長、平本次年度委員長、金井地区事務局長も今年度インターラクト委員長補佐としておいでになりました。

大会一日目は、宇部フロンティア大学付属香川高等学校インターラクトクラブの檜垣大会委員長の点鐘で始まりました。各々の挨拶の後、財団法人宇部市常盤遊園協会の白須道徳先生による“常盤湖の水生生物の変遷”と題した講演が行われました。講演では、他の場所と同様に、常盤湖でも特定外来生物が著増しており、生体系に大きな変化が起こっているけれども、今の現状を、今後どうするかをしっかりと見据えて、良い環境を整えてやれば、よい状況が復活する事を、ホタルの例をあげて具体的にお話しされました。その後、湖水ホールを出て全員で記念撮影、そして園内の自由散策となりました。例の鳥インフルエンザの影響で、300羽以上いたという白鳥が見られなかったのは残念でしたが、湖を渡る風は心地よく、猛暑を一時忘れるほどでした。その後、生徒さんとロータリアン、顧問の先生方に分かれて宿舎に向かいました。

ここで特筆すべきは、今回のインターラクト地区大会懇親会が、宇部西ロータリークラブの2500回記念

例会とジョイントで行われたことでしょう。これは実際に23年かけての記録だそうで、このような歴史的な例会に参加出来た事は、私にとりましてもとてもよい記念となりました。このような引き受けのロータリークラブの例会とインターラクト地区大会の懇親会を合体させる形も、懇親のあり方としてはとても面白い試みだと感じました。

大会2日目は、“地球と人類の将来について考えてみましょう”という題で、宇部フロンティア大学教授の松本治彦先生のご講演でした。この中で先生は、現在が実は氷河期であることから説き起こし、人口問題、食料問題、エネルギー問題、資源問題など様々な直面する問題に対して詳しく解説をされ、プラス思考の大切さを説かれました。これを受けての生徒たちのグループワーキングでは、身近なことから環境を整える、次の世代に環境問題を伝えていく、リサイクルなどのできることから始めてみる、植物を育てるなど地球を大切にする、未来と現実をみて行動する、物事をポジティブに考える、事実やひとの意見をしっかり把握し問題解決能力を培う、エコなどで地球に貢献する、仲間と助け合い自分でできることをみつける、などの発表がありました。最後に昨年度の広島、山口で行われた指導者研修会の報告、また、韓国への研修報告がそれぞれ担当校のインターラクトクラブからなされ、無事閉会となりました。

今年は、例年ない猛暑でしたが、一人の脱落者も無く若いインターラクトクラブの生徒さんたちの熱気ある行動に明るい未来を感じました。

最後に、この地区大会に参加してくれた各インターラクトクラブの生徒さんたちはもちろんですが、大会をしっかりと支えて頂きました宇部西ロータリークラブの皆様、宇部フロンティア大学付属香川高等学校の先生方、ご参集頂きました提唱クラブのロータリアンの皆様に、心から感謝の意を表します。



